

東日本大震災から10年

地震が発生したらまずは命を守る行動を

地震発生の瞬間は、一度に多くのことを適切に判断することが難しくなります。緊急地震速報を受けてから、とっさの際にできることを普段からイメージしておきましょう。（家にいる時の行動です）

【必ず行う行動】

- (1) すぐに安全な場所に移動する。
- (2) 外への出口を確保する。
- (3) 揺れが収まってから行動する。

【時間がある時には】

- (1) 火の元になりそうなものをなくす。
- (2) 窓ガラスなどが割れて飛散しないようカーテンを閉める。

また就寝中に地震に襲われると家具の転倒や逃げ遅れる可能性があり大変危険です。背の高い家具などは、子どもや高齢者がいる部屋にはなるべく置かないようにしましょう。安全に避難できるように、倒れやすいものは出入り口や通路に置かないようにし、日頃から避難経路を確認しておきましょう。

住まいが被害を受けたとき最初にすること

災害で住まいが被害を受けたときは、あまりのショックに、何から手を付けたらいいかわからなくなるかもしれません。被災者の方々が一日も早く日常の生活を取り戻せるように、行政もさまざまな支援に動き出します。それらの支援も受けながら、一歩ずつ再建を進めていきましょう。

〈家の被害状況を写真で記録しましょう〉

片付けや修理の前に、家の被害状況を写真に撮って保存しておきましょう。町から罹災証明書を取得して支援を受ける際や保険会社に損害保険を請求する際に、たいへん役に立ちます。

下記の点に注意し、写真を撮りましょう。

【家の外の写真の撮り方】

●カメラ・スマホなどなるべく4方向から撮るようにしましょう。

●浸水した場合は、浸水の深さがわかるように撮りましょう。

※メジャーなどをあてて「引き」と「寄り」の写真を撮ると、被害の大きさが良くわかります。

【家の中の写真の撮り方】

①被災した部屋ごとの全景写真

②被害箇所の「寄り」の写真

(想定される撮影箇所)

内壁、床、窓、出入口、サッシ、襖、障子、システムキッチン、洗面台、便器、ユニットバスなど

※被害を受けた部屋・箇所はすべて撮影しましょう。

町民生活課

7216933

<イメージ図>

